

# 「食と農」の博物館 展示案内

No.27  
東京農業大学「食と農」の博物館  
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28  
TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時～午後5時(4月～11月)  
休館日 午前10時～午後4時30分(12月～3月)  
月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)・毎月最終火曜日  
大学が定めた日(臨時休業がありますのでご注意ください)

展示期間  
**2008.3.28～6.1**

## ウクライナの魂 —聖なる豊かな大地— 稲田美織写真展



紫が咲く花の丘(カメニェツ・ボジリフキ市)

### はじめに

2003年9月、東京農業大学とウクライナ共和国ウクライナ国立農業大学(National Agricultural University of Ukraine)の間に、姉妹校協定が締結され、ウクライナ国立農業大学は本学15番目の姉妹校となった。それ以来、本学と同校との活発な交流が始まった。教職員による研究交流だけでなく同校からは現在、8名の留学生を迎えている。

ウクライナは、世界有数の穀倉地帯であるが、ウクライナ国立農業大学はウクライナの農学分野のリーダーとして輝かしい地位を占めている。

1898年9月30日 Kyiv Polytechnic Institute (KPI)として設立され、1994年国立大学となった。

1996年から97年にかけては各地の農学系学校を吸収合併し、2000年国立独立行政法人となっているが、現在でも政府直轄の農学系高等教育研究機関として学内に多数の研究機関施設を持つ。教員数約900名(教授200名、助教授600名、その他研究員100名)、学生数約19,000名(うち修士課程500名、博士課程400名、社会人専門家訓練3,000名)という大規模校でもある。





ウクライナ国立農業大学との姉妹校協定の調印式

青と黄色からなるウクライナの国旗。青は大空、黄色は穀物畑を象徴するともいう。肥沃な黒土からなる豊かな大地では、コムギ、ジャガイモ、サトウダイコン、ヒマワリ、ナタネなどが栽培されており、広大な畑は美しい景観を作り出している。恵まれた農産物を活かした

郷土料理も多様で、食の面からもぜひ、味わってみたい国でもある。

ウクライナはまた、古い歴史と豊かな文化の国である。首都キエフの名を冠したバレエ団やオーケストラはその実りといえよう。さらに、世界遺産にも指定されている聖ソフィア大聖堂やベチェールシク大修道院などを擁する聖なる大地でもある。

この度、ウクライナ大使館の主催により「特別企画 稲田美織写真展 ウクライナの魂 一聖なる豊かな大地へ」を開催する運びとなり、ウクライナを愛する写真家稲田美織氏の美しい写真を多数、皆様にご覧頂くこととなった。この特別企画が多くの皆様に、ウクライナについて理解と親しみを深める機会となることを期待している。そして、東京農業大学と国立ウクライナ農業大学が姉妹校であるように、この聖なる豊かな大地へと思いを馳せる人々によって、将来にわたって両国の友好が一層深まることを願っている。

東京農業大学「食と農」の博物館館長 夏秋啓子

## 駐日ウクライナ大使からのご挨拶

親愛なる日本の皆様、

「日本におけるウクライナ文化紹介」の取り組みにおいて、3月28日から6月1日まで東京農業大学「食と農」の博物館にて行なわれる、稲田美織写真展「ウクライナの魂」～聖なる豊かな大地へ～の開催に際し、簡単ですがご挨拶を申しあげるのは光栄の至りです。

ウクライナという、東欧にあって日本から地理的にも離れた国が、日本でまだあまり知られていないことと、最初はこの写真展に「知られざるウクライナ」というタイトルをつけようと考えておりました。しかしウクライナ独特の色調で溢れる、我が国の「魂」が見事に伝わってくる稲田美織氏の写真を拝見してから、タイトルを「ウクライナの魂」に変更することを決心致しました。

この写真展は「百聞は一見にしかず」ということわざが何よりもふさわしいと存じます。この写真展は、日本の皆様が、才能のあるフォトグラファー 稲田美織氏の作品を通して、ウクライナをご自身の目でご覧いただける大変貴重な機会になることでしょう。皆様が稲田氏の写真をご覧になると、ルーシー、すなわち母

なるロシアの発祥の地である歴史の古い土地を、そして我々の国民の独特な伝統や建築の名所などを知ることができ、ウクライナの自然の美しさを感じていただけるでしょう。

この機会をお借りし、我が国へのご厚情で稲田美織氏、日本とウクライナの両国間に友好関係をより一層深めることに対する長年にわたる多大なご貢献で東京農業大学学長 大澤貫寿氏、そしてこの写真展を無事開催するために、全力を尽くしていただいた東京農業大学の皆様に対し、心より感謝を申しあげます。

日本の皆様には、是非この写真展をご覧にお越しくださるようお願い致します。この写真展が、日本の皆様にとって興味深いものであることを、そして日本から遠く離れた国ではありますが、我が国について更に知っていただく機会となり、いつか皆様がウクライナを訪れてくださる契機となることを祈っております。

敬意を込めて、

駐日ウクライナ大使  
ミコラ・クリニチ



## ウクライナを旅して

ウクライナは全ヨーロッパの地図を厚紙で切り取り、人差し指で支えたときバランスが取れる点、すなわち、地理的にヨーロッパの中心に位置していて、東と北はロシアに囲まれ、西はポーランド、ルーマニアなどに接し、南沿は美しい黒海が広がっている。黒海に突き出たクリミア半島はヨーロッパでも人気の高いリゾート地である。

ウクライナの首都キエフはドニプル川を眼下に臨む高台にあり、ソフィア寺院から広場の反対側に建つミカエル寺院の壁の水色は、澄み切ったウクライナの空に溶け込むようであり、見ているだけで心が清らかになる。この教会の大天使ミカエルがキエフの町を守護する天使なのだ。そばでこの教会を良く見ると、まるでおとぎの国のお菓子でできた建物のものである。ロシア正教発祥の聖地、ベチュルースカ大聖堂は、ソフィア寺院と同様に世界遺産に登録されている。特にベチュルースカ大聖堂は、大規模で一日ではとても回ることはできない。その深遠の祈りの聖地には、いくつかの修道院があり、ミサが行われていて、人々の純粋な祈りの姿に私は深い感動を覚えた。人々が歌うその聖歌は、心に染み入るようである。地下の修道院には世界中から巡礼者が訪れる、聖地である。

キエフやリビブには、素晴らしいオペラハウスがあり、オペラ・バレエを始めとして、質の高い文化・芸術が、人々の生活に溶け込んでいる。リビブの町は、古いヨーロッパがそのまま残り、1000年位前の美しい様式に飾られた建築がそのまま残存している。まるで街中が、美術館のようだった。それ以外にもウクライナには、たくさんの本物が内在していることに驚く。

ウクライナは都市だけでなく、地方の美しさも特別なものだ。イワノ・フランキフスク州、ここは山岳地帯を有する自然に恵まれた美しい州で、めずらしい木造教会や、アルプスのようなお花畑の景色、広大な牧場、美しい水の風景に迎えられた。特に木造教会は、日本の建築に通じるような懐かしさがあり、木によって支えられている人々の暮らしがあった。遠くに雪を頂に抱く山々、日本の田舎のような懐かしい風景、クリボリフナヤ村で、木で造られたマリア生誕教会を訪れた。教会の門をくぐり、湧き水がすぐ横を流れる、野生の花々で彩られた階段を上って行くと、美しい聖歌がドアの外からも聞こえた。

途中の村々では、日本では絶滅寸前のコウノトリが頻繁に電信柱に巣を作っていて、しかも丁度ひな鳥を育てる時期と重なり、大きな巣から小さい頭が5羽も6羽もヒョコッとのもぞいている愛らしい姿を何度も見かけた。ウクライナでも、コウノトリは子供を運ぶ幸運の印として歓迎されていて、村人たちは自分の家に巣を作してほしいと願っているのだそうだ。コウノトリの存在は、豊かな自然、美りの証明である。

6月は、色とりどりの花が咲き乱れ、丁度、イチゴとさくらんぼの収穫時期にも当たり、村のそれぞれの家の前ではおばあさんや子供たちが、庭や畑でその日に収穫された果物をのんびり売っていた。その果物は、完全に熟れた甘くて良い匂いがし、本当の豊かさを味わうことができた。

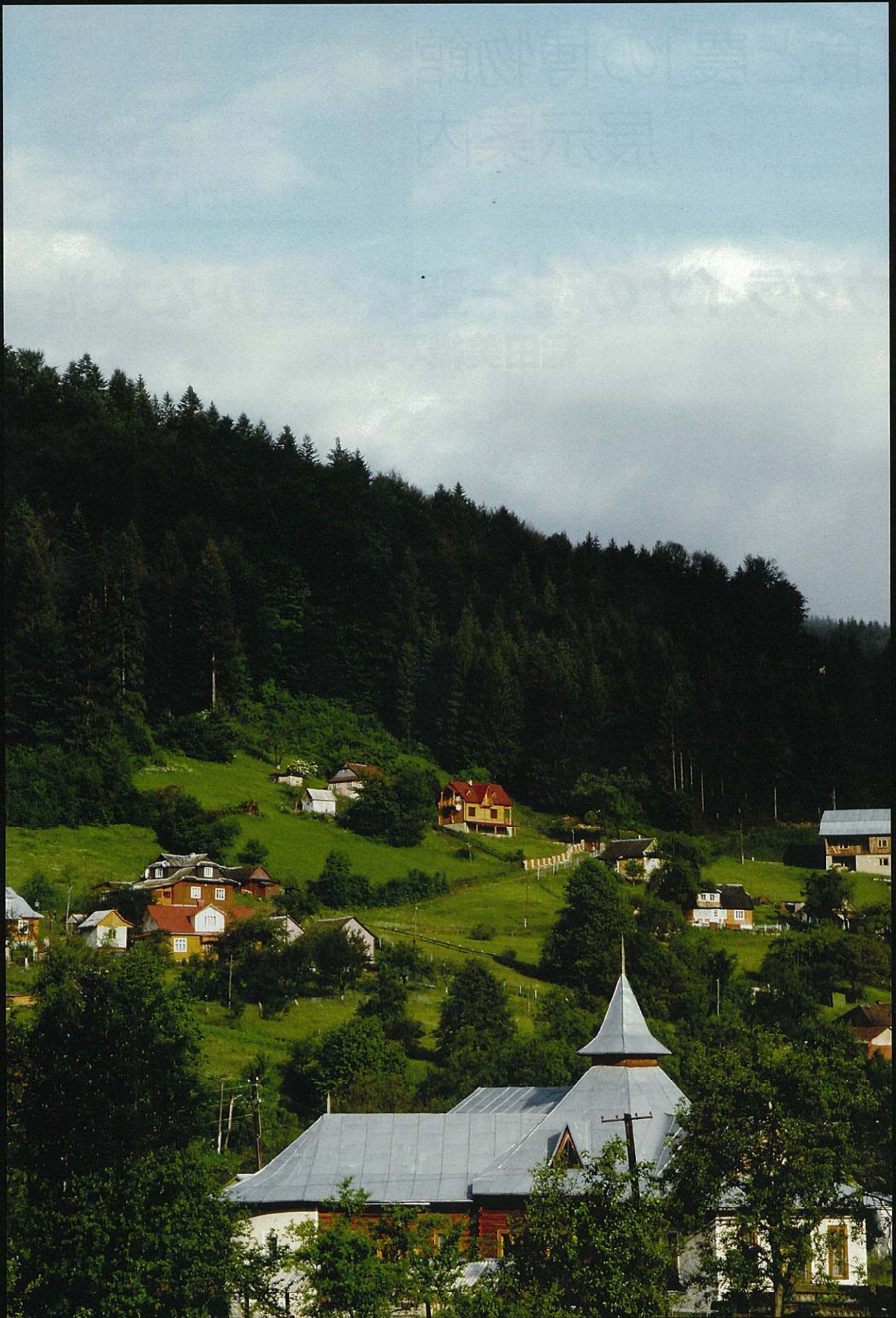


積み上げた藁(イワノ・フランキフスク州)



マリア生誕教会(イワノ・フランキフスク州)





山の家並み (イワノ・フランキフスク州)

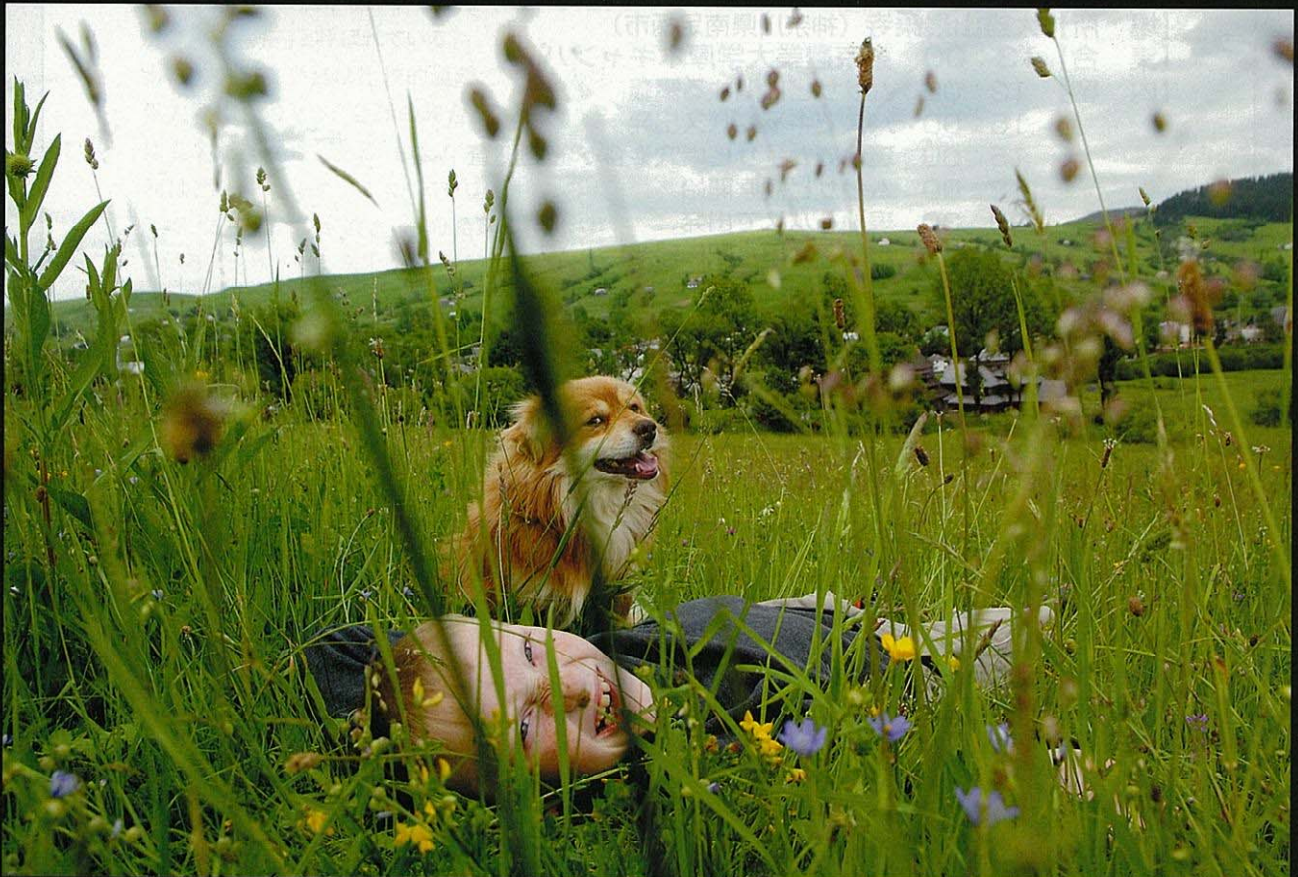




オペラハウス(キエフ)

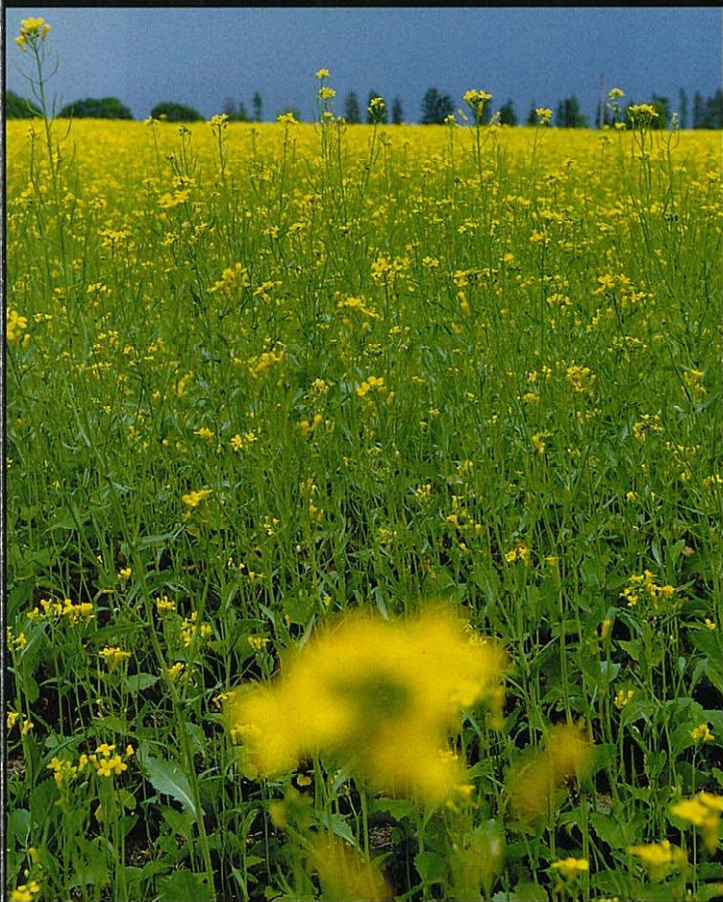


ミカエル教会(キエフ)

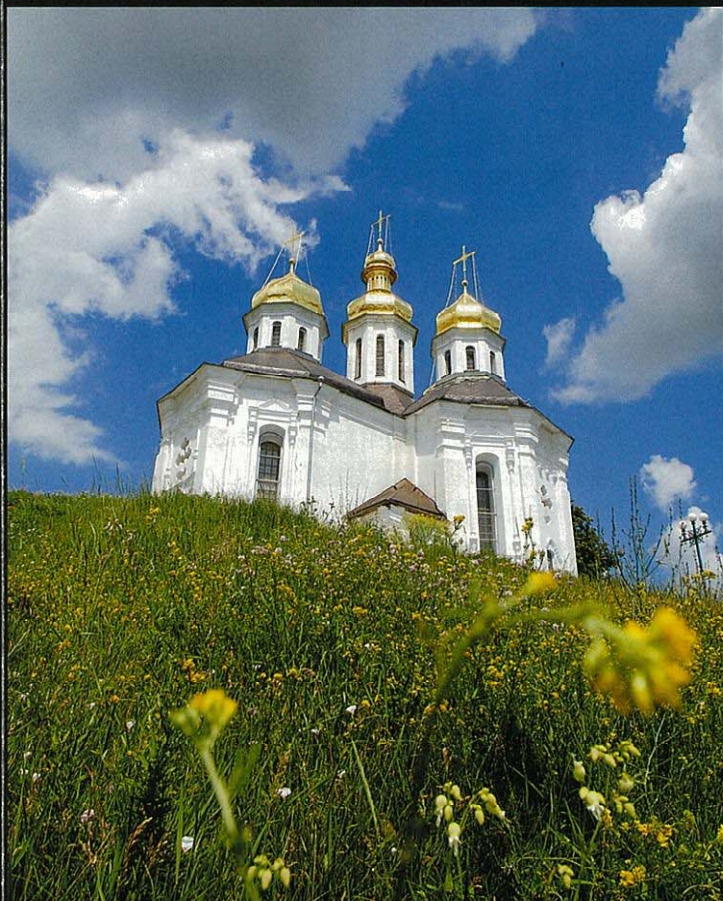


少年と犬(ヤシニャ村)





菜の花畑 (カメニェツ・ボジリフキ市)



教会と花 (チェルニーヒフ)

その周りには菜の花畑が地平線まで続き、空とその黄色のじゅうたんの風景は、まさにウクライナの国旗そのものであった。

ウクライナ料理は、とても健康的なもので、ボルシチというピーツのスープはウクライナの代表料理だ。カツレツや、肉魚料理、すべて日本人の口に合う。また乳製品の質が高く、様々な料理に使われていて、とてもおいしい。日本に一番輸出している製品は粉ミルクなのだそう。教会では蜜蝋から作られたろうそくが灯されていて、ウクライナの蜂蜜は、特産の琥珀のようにきれいで、格別においしい。田舎の一般の家の庭先にも養蜂のための箱がよく見られた。初夏は菩提樹の花が街中で満開になり、その花からミツバチが集めた蜂蜜は花の香りがした。また、きのこと料理はその味、種類の豊富さに驚かされた。じゃがいも料理、特に新じゃがいもの味はシンプルなのに絶品だった。

カメニェツ・ボジリフキ市は、まるで中世のおとぎ話そのままの街である。蛇行した川が浸食し、中世の街が川の中に円形の高台のようになっていて、今にも騎士が現れるような城が町の端にあった。その向こうには、ラベンダーとポピーの咲く平原が広がっていた。高台の上の町もまるでタイムスリップしたような雰囲気だったが、川に下りるとまた、さらに風情のある昔の村の風景が広がっていた。それは、国を超えた、心のふるさとの原風景なのだろう。

ウクライナの美しい風景と暖かい人々との出会いは感動の連続だった。世界で失われつつある大切なものがここにはある。このように素朴で、美しい場所がまだ地球上に存在していることを、本当にうれしく思う。私たち日本人にとって、まだまだ未知であるウクライナへの旅は、すべての人にとって特別な旅となるに違いない。

文：稲田 美織

#### ● 稲田 美織 (Miori Inata) プロフィール

多摩美術大学・油絵科卒業後、一ツ橋中学校で教職を務めた後、1991年からNYを中心に活動する。ハーバード大学、NY工科大学、アートスペースギャラリー、Wadaファインアーツ、東京農大「食と農」の博物館、ニコンギャラリーなど世界中で個展。また、MOMAやイスラエル美術館でも展覧会に出品。特に2001年に目撃したNY同時多発テロ以来、世界中の聖地や伊勢神宮の式年遷宮などの撮影を続けている。様々な雑誌や新聞にも写真と記事を発表する。東京農業大学でのウクライナ写真展は世界中に巡回展の予定。6月頃、ランダムハウス講談社から「聖地へ」フォトエッセイ集、出版予定。

◎問い合わせHP <http://www.mioriinata.com>



## ウクライナはどんな国

- 国名： ウクライナ  
国旗： 空色・黄色の二色旗（青空と小麦の黄色い畑を象徴している）  
国歌： 「ウクライナは不滅」  
1865年ヴェル ビツキー作曲  
国章： 青地に黄色の「みつほこ」  
面積： 60万3,700平方キロメートル  
（日本の約1.6倍）  
人口： およそ4,800万人  
首都： キエフ市（北緯50度25分、東経30度30分）  
樺太北部、フランクフルト（ドイツ）、ウィニペグ（カナダ）とほぼ同緯度  
通貨： フリヴニャ（UAH）、1USD=5.05UAH  
（2008年1月29日現在）  
日本との時差： -7時間（3～10月の夏時間の間は-6時間）、GMT+2時間  
位置： 旧ソ連欧州部の南（黒海の北）に位置し、東西約1,400キロメートル（東経24～40度）南北約900キロメートル（北緯44～52度）。国境を東から西に、ロシア、ベラルーシ、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、モルドバと接している。  
地勢： ウクライナの国土の半分は平野で、北部にはポレーシエ湿地、東部にはドネツク丘陵、西部にカルパチア山脈から続く高地がある。中央部及び南部の平野は、肥沃な黒土に被われており、小麦などの耕作地が広がり、ロシア帝政時代から「欧州の穀倉地帯」と呼ばれている。  
南部のクリミア半島は比較的温暖で、第二次世界大戦末期のヤルタ会談の舞台となったヤルタは有名な保養地である。ドニエプル（ドニプロ）河は、ヴォルガ、ドナウに次ぐヨーロッパ第3の大河で、ウクライナの水道水、水力発電に利用されているばかりでなく、水上交通の大動脈となっている。  
気候： 北部及び西部は冷帯湿潤大陸性気候（Dfb）で比較的降水量が多く、南東部は乾燥したステップ気候（BS）、クリミア半島は比較的温暖な温暖湿潤気候（Cfa）である。南部では、給水制限を伴う深刻な水不足に見舞われることもある。  
雨量は最も多いカルパチア地方で年間1,200～1,600mm、最も少ない東部で300mmである。キエフ及びオデッサの月平均気温、降水量は右図の通り。首都キエフの2001年の年間平均気温は8.8℃、年間降水量は633mm。  
言語： 96年6月に制定されたウクライナ憲法により国語はウクライナ語と規定された。但し、ロシア語等他の言語の使用も自由とされている。ウクライナ語は東スラブ語の一つでロシア語、ベラルーシ語と兄弟関係にあるが、ロシア語に比して、古代スラ



国旗



国章



ウクライナの位置

ブ語の色彩を残し、ポーランド語と共通する語彙が多く見られる。ウクライナ人にとってロシア語は旧ソ連時代の公用語であったこともあり、多くの者は両語を理解し、ロシア語とウクライナ語の混交も見受けられる。

主な宗教： ウクライナ正教（キエフ主教派、モスクワ主教派、自治教区派）、ギリシャ・カトリック（ユニエイト）、ユダヤ教、イスラム教（スンニー派）、カトリック

主要記念日（祭日）：

1月1日新年、1月7日正教クリスマス、3月8日国際婦人デー、4月復活祭（年によって日が異なる）、5月1日メーデー、5月9日対独戦勝記念日、6月三位一体祭（年によって日が異なる）、6月28日憲法記念日、8月24日独立記念日

ウクライナ大使館提供

ウクライナの農業：

比較的温暖な気候と国土の60%を占める黒土地帯。多くの農作物はこの肥沃な土地で、化学肥料をそれほど必要としないで栽培することができる。小麦、甜菜（サトウダイコン）、ジャガイモの大産地であるほか、ソバ、ニンジン栽培ではヨーロッパ1位、トマトは2位となっている。また、トウモロコシ、スイカ、リンゴ、ナシなどでも有名で、ヒマワリの種やヒマワリ油の生産も盛んである。

農業生産は減少傾向にあるが、総人口の28%は農業および農業関連産業に従事しており、広い農地を有している。しかし、土地の劣化や、環境問題などは、世界共通の問題であり、ウクライナでも同様となりつつある。

また、農業の機械化も急務である。土地売買の自由化も可能になっているが、これにより土地所有や利用にも変化が生じている。豊かな大地の農業が、今後、どのように発展していくのか、農学の果たす役割は大きい。

（2004年に東京農業大学で開催された第4回 世界学生サミットにおけるウクライナチームのポスター発表より）



## 「ウクライナの魂 ー聖なる豊かな大地ー」関連行事

- ミュージアムトーク（無料・参加自由 直接博物館2階セミナールームにお集まりください。）  
ウクライナに魅せられて  
講師 稲田美織（写真家） 2008年5月17日（土）13：30～15：00

◎主催 在日ウクライナ大使館

## 「センサーカメラでみる野生動物の世界」関連行事

- モグラ、ノネズミなど小哺乳類の生体展示（期間中の土・日）  
（動物の具合によって展示できない事もあります。）
- 講演会（無料・参加自由 直接博物館2階セミナールームにお集まりください。）
1. 「熱帯雨林におけるセンサーカメラ調査」  
講師 松林 尚志（東京農業大学）  
2008年5月10日（土）14：00～16：00
  2. 「エゾモモンガの生態とセンサーカメラ」  
講師 浅利 裕信（帯広畜産大学）  
2008年5月24日（土）14：00～16：00
  3. 「モニタリングサイト1000プロジェクトとセンサーカメラ」  
講師 青木 雄司（神奈川県公園協会）  
2008年8月23日（土）14：00～16：00
- 大雄山最乗寺ムササビ観察会 2008年4月19日（土）◎事前申込みが必要です
- 【人数】先着20名（小学生以下の参加は保護者同伴で、保護者も人数に含まれます。）
- 【場所】大雄山最乗寺（神奈川県南足柄市）
- 【集合】13：00 東京農業大学厚木キャンパス
- 【内容】13：00 ムササビに関する講義  
15：00 バスでキャンパス出発  
16：00 現地でムササビ巣穴や食べ痕を調査  
18：00 ムササビ観察開始  
20：30 現地をバスで出発  
21：30 小田急本厚木駅に帰着
- 【参加費】1,000円（傷害保険、資料代として。集合時に徴収します。）
- 【用意する物】  
夕食弁当（境内の食堂はこの時間には営業していません。飲み物の自販機はあります。）  
懐中電灯（自分の足元確認用です。調査用は用意いたします。）
- 【申込み】先着順。東京農業大学「食と農」の博物館事務室（☎03-5477-4033）まで
- 【その他】事前講義を含みますので、現地集合はできません。  
雨天中止（当日の確認は野生動物学研究室 安藤まで☎046-270-6575）

### 同時展示

- センサーカメラでみる野生動物の世界 ー身近にいるのに気づかない野生動物たちー  
2008年3月28日（金）～8月31日（日）

### これからの展示

- 東京農業大学の砂漠緑化研究  
水利用から見たアフリカ乾燥地開発 モロッコのハッターラを用いた水利用  
2008年5月17日（土）～11月9日（日）